

平成 30 年度学校評価報告書（目標設定）

	学校目標	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>・自信を持って社会参加し、自立に対する意欲をもって臨む生徒を育成する教育課程を検討し、再構築する。</p>	<p>①「わかる・もっとやってみてみたい授業」「学びあえる授業」を積み上げる。</p> <p>②「授業研究・支援会議」のシステム化を進め、チームによる授業改善を図る。</p>	<p>①実態把握を生かした指導計画の作成および学習内容の設定を行い、授業実践する。授業後の学習評価を次の授業に反映させる。</p> <p>②「授業研究・支援会議」で得た改善アイデア等を共有化する。</p>	<p>①実態把握と学習評価を反映させた授業を実践し、生徒が主体的に授業に参加できたか。</p> <p>②「授業研究・支援会議」のシステムを共有化し、チームによる授業改善ができたか。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>・生きる力の基盤となるものを育む授業に活かせるアセスメントを検証し、指導に反映させる。</p> <p>・社会生活に必要な、他者との協調・思いやり、規範・モラルの意識を育む指導を充実させる。</p>	<p>①生徒の実態や課題の捉え方として共通認識できるツールを作り、3年間を見通した取り組みとして、実用化につなげる。</p> <p>②すべての教育活動において人権保護の意識を高め、全職員でいじめ防止に取り組む。コミュニケーション授業等において SSE に積極的に取り組み、指導や支援を実践する。</p>	<p>①入学後から 1 学期間で行う各アセスメントについて、試行を通し、項目・内容を整理する。各アセスメントについて試行を通して、評価表の形式を検討する。</p> <p>②教育相談や聞き取り、いじめ防止アンケートなどを行い、指導に反映させる。専門職との協働のもと、授業案を立てる。携帯電話教室・サーバー犯罪教室(事前事後学習を含む)などを活用して、日々の指導につなげる。</p>	<p>①生徒の実態や課題を捉える項目・内容を整理した評価表を、試行を通して作成できたか。</p> <p>②教育相談や聞き取り、いじめ防止アンケートなどで生徒の状況をつかむことができ、適切に指導に反映できたか。専門職と協働し、SSE を活かし実態に合った授業・支援ができたか。学習を通じて、自分を守り相手を傷つけないポイントについての理解が深まったか。</p>
3	進路指導 ・支援	<p>・生徒が納得できる進路選択できるように、生徒の思い、状態像を反映した指導、支援を行う。</p>	<p>①キャリア教育の視点(「社会的自立」や「生活の充実」)に向けた確かな力を培う</p> <p>②アフターフォロー業務全体の効率化を図るとともに、卒業生の実情に応じたアフターフォローを実施する。アフターフォローで見えてくる課題を整理し、校内で共有する。</p>	<p>①3年間を見通した進路学習の指導内容を、各年次の目的に応じて整理し、まとめる。またそれを学年・進路・UD で共有し、授業実践や進路行事の設定を行う。</p> <p>②H30 年度のアフターフォロー計画を基本とし、ケースに応じて、早めに情報収集を行い対応する。(電話・巡回・各種会議)年2回(9月・3月)職員会議で全体にアフターフォローの結果を報告し、情報を共有する。</p>	<p>①3 年間を見通した進路学習の指導内容を年次ごとに整理し、まとめることができたか。また、学年・進路・UD で共有し、実践することができたか。</p> <p>②アフターフォロー業務の効率化と、生徒の実情に応じたアフターフォローが実施できたか。アフターフォローで見えた課題を校内で共有し、在学中に必要な指導も含めて確認することができたか。</p>
4	地域等 との協働	<p>・地域の特性を活かしたセンターの機能を検討し、インクルーシブ教育の推進に寄与する。</p>	<p>①高校への支援について、具体的に支援スタッフ間の情報共有を図り、支援方法を構築し実施する。高校との交流及び共同学習を推進することにより、地域資源を活用する授業をいっそう充実させる。</p> <p>②地域の人的資源を積極的に活用する。防災教育及び避難訓練等をより実践的に実施する。</p>	<p>①過去に巡回した高校にその後の様子をうかがい、必要に応じて巡回相談等を行う。近隣の高校の取り組みの様子をうかがい、新たなニーズを探る。これまでの取り組みを参考に、共に活動できる学習場面を探りながら、計画実施に向けたやり取りをしていく。</p> <p>②外部講師としての地域資源の活用を積極的に推進する。防災教育及び地域と共に避難訓練等を行うなど、より実践的に推進する。</p>	<p>①高校への支援について、支援スタッフ間で情報共有を図り、働きかけを行うことができたか。共に活動できる場面を探り、地域資源を活用した授業に向けてやり取りができたか。</p> <p>②外部講師としての地域資源の活用を積極的に推進できたか。防災教育及び地域と共に避難訓練等を、より実践的に推進できたか。</p>
5	学校運営 学校管理	<p>・学校・教職員の特別支援教育の専門性をより向上させる。</p> <p>・事故を未然に防ぎ、学校への信頼を維持する。</p>	<p>①研究体制を整え、研究内容を充実させる。</p> <p>②グループ業務の適正化をさらに進めて、わかりやすいグループ・班運営を行う。</p>	<p>①「生徒の実態に合わせた学習グループ編成について」をテーマとし、実践研究を行なう。</p> <p>②見通しの持ちやすい業務分担表や年間計画を作成し、班別あるいは担当別の打合せを計画的に実施する。</p>	<p>①研究成果によって、より生徒の実態に合った学習グループが編成できたか。研究の成果によって、学年を超えた知見の共有ができたか。</p> <p>②業務引継ぎ資料を作成できたか。業務の振り返りを含めてスケジュールや内容など次年度担当者が引き継ぎやすい内容だったか。</p>